

## 名古屋・白龍特別号

写真は「景住ネット NEWS」no. 18 名古屋・白龍特別号、2018. 8. 20。

景住ネットとは、景観と住環境を考える全国ネットワークの略である。

名古屋市瑞穂区の閑静な白龍の住宅地に、15階建てのマンションが

建設された。それに抗議する住民代表、奥田恭正さん

が逮捕され、法廷の場に。白龍特別号では、「2016年

10月の逮捕、起訴から1年半あまり。2018年3月28

日に奥田さんの無罪が確定しました。奥田さんの裁判の経緯と意味。それを支えた多くの人の声」をビジュアルに編集している。ここでは、弁護団の声を紹介したい。

白龍のマンション紛争と奥田さん裁判については、現地を歩き、裁判を傍聴して数多くのレポートを書いてきた。この特別号から、捜査段階での弁護活動など初めて知ったことも多かった。当初から弁護活動に携わった佐橋祐策弁護士は、奥田さんの人柄とともに、全国弁護団の結成が大きな力になったという。「地元名古屋では、主任弁護人の國田弁護士だけでも相当のインパクトがありますが（笑）、それを遥かに超えるインパクトを与えたはず」と語る。

塚田聡子弁護士も次のように述べている。諦めず、慣らされず、「おかしいことはおかしい」と物言う姿勢を貫くことが、社会を少しずつ変えていくのだと思います。その変化は目に見えなくても、振り返ったときに、「ああ、あのとき頑張ったことには意味があった」と感じるものではないでしょうか。それは、1人という単位で見れば、気づかない程度の変化かもしれませんが、社会の片隅で、奥田さんのように諦めずに声を上げ続けるひとがいる限り、それが積み重なって、世の中が少しずつでも良い方向に変わっていくのだと信じていたいものです。そして、我々弁護士が、少しでもそれを支えることができれば、これほど嬉しいことはないと思います。

中谷雄二弁護士は「弁護団構成の点でも恐らく二度とないような珍しい構成となり、大変楽しい事件だった」と振り返り、今後は、このでっち上げ事件の責任追及をと語る。確かに弁護団はユニークな？構成であり、自信なさそうな検察側に比べ元気があった。その筆頭は國田武二郎弁護団長であり、大きな声と身振り手振りの追及は迫力があつた。中谷弁護士が事件当夜、現場監督が飲酒して帰宅したのを巧みに追及したことなども、ドラマチックであった。

私がこの事件に関心を持ち、裁判の傍聴に通い続けたのは、奥田さんと地域の人たちに惹かれただけでなく、こうした元気な弁護団の活動によるものでもあつた。

(2018年9月3日)

